後援者あいさつ



読売新聞東京本社
さいたま支局長　梅沢 清次

「戸田マラソン in 彩湖 2026」に出場する皆さん、体調はいかがでしょうか。力いっぱい、でも無理はせず、元気にゴールを目指してください。

この大会が始まった頃、私はまあまあ足が速い子供で、中学校で陸上部に入りました。「将来、自転車競技の選手になりたい」という夢があり、足腰を鍛えようと毎日、グラウンドを走っていました。

苦しい練習の中で、楽しかったのが「400 メートルリレー」です。4 人でバトンをつなぎ、タイムを縮めたときの喜びは、40 年たった今でも覚えています。

健康のために走る人、自己ベストを狙う人、湖面沿いの豊かな自然にひかれた人……。マラソンを始めたきっかけや、今大会を選んだ理由は異なるでしょう。それでも、新設された「リレーマラソン」の参加者の気持ちは想像がつきます。走ることだけではなく、「つなぐ」ことに魅力を感じて、仲間を集めてエントリーしてくれたのだと思っています。

自転車選手の夢はかなわなかったものの、新聞記者として様々なスポーツ大会を取材し、素敵な選手たちと出会うことができました。多くの関係者に支えられて、43 回の歴史をつないできた戸田マラソン。新たな出会いを願って、全てのランナーに声援を、全ての関係者に感謝の言葉を送ります。



国土交通省関東地方整備局
荒川上流河川事務所
事務所長　萩原　健介

この度は、第 43 回戸田マラソン in 彩湖 2026 に、多くの方々がご参加され、盛大に開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。

戸田マラソン会場でもあります彩湖は、荒川第一調節池内にございまして、国土交通省荒川上流河川事務所が荒川第一調節池の管理者をしております。

本日はこの機会を借りて、彩湖を含む荒川第一調節池の３つの役割についてご紹介させていただきます。

１つ目は『洪水の貯留』です。大雨の際に荒川の水の一部を荒川第一調節池内に貯めることで、首都圏の洪水被害を軽減します。

２つ目は『水の供給』です。水不足になった時に、荒川第一調節地内の彩湖から、埼玉県と東京都の水道水となるための水を供給します。

３つ目は『河川空間の利用』です。普段は、散策やジョギングなど、大変多くの方々に、この空間をご利用いただいています。

ランナーの皆様に、戸田マラソンの会場が「治水」、「水道」などにも役立っていることを知っていただければ、望外の喜びにございます。

結びに、今大会の開催にあたりご尽力いただきました関係者の皆様に敬意を表すとともに、ランナーの皆様が、日ごろの鍛錬の成果を遺憾なく発揮し、怪我をされることがなく、楽しく、完走されることを心より祈念しまして、挨拶とさせていただきます。